

## 石狩湾新港地域におけるオンデマンド交通の実証実験案

## 1. 実証実験概要

石狩湾新港の従業員向け通勤用シャトルとして、複数の立地企業の従業員による乗り合いを前提としたオンデマンド交通を導入。同一の車両を通勤のオフピーク時には石狩市内(主に花川、樽川地域)の域内オンデマンド交通として運行。二つの運行形態それぞれの事業性を検証する。

## 2. 背景と目的

## 1) 課題認識

- ✓ 全国屈指の規模を持つ石狩湾新港工業地帯であるが、公共交通を使って通勤している従業員は全体の2%弱に留まっており、マイカー通勤(約68%)と立地企業の自社バス(約30%)が主たる通勤手段となっている。
- ✓ 上記に伴い、立地企業の誘致、立地企業の雇用確保、石狩市内の働き手の流失といった課題が発生している。
- ✓ 石狩市内の路線バス利用者は減少傾向で、さらに新型コロナウイルス感染症の影響による減便が継続している。

## 2) オンデマンド交通

- ✓ オンデマンド交通はIT技術の発展によって登場した、タクシーのデマンド性と路線バスの乗合性を兼ね揃えた新しい交通手段として近年注目を浴びている交通システムであり、全国各地の自治体で導入に向けた実証実験が行われている。
- ✓ 石狩市では、2020年度から順延となっているコミュニティバスの実証実験に加えて、新たな交通システムのトライアルとしてオンデマンド交通の実証実験を2022年度に実施し、最適な交通システムの検討を行う意向である。

## 3) 実証実験の目的

本実証実験では主に以下について確認することを目的とする。

No.	項目	方法
1.	オペレーションの実現性	オペレーターによる検証
2.	集客力	乗客数の確認
3.	利用者の満足度	利用者、市民へのインタビュー
4.	採算性	運賃単価と導入コストの確認
5.	既存交通路線との親和性	交通事業者との協議

## 3. 実証実験詳細

## 1) 実証スキーム

(別紙参照)

## 2) 主要項目

- ✓ サービス形態；
  - ① 石狩新港向け通勤シャトル  
立地企業の従業員向けに、固定ルートのシャトルを導入。予約システムをオンライン化し、現在は自社バスを運行していない他社にも開放することで企業間の相乗りを実施。
  - ② 石狩市内向けオンデマンド交通  
通勤のオフピーク時間に同一車両を使用して、石狩市内でオンデマンド交通を運行。ルートを定めないドアツードア型を想定
- ✓ 車両数；  
4～5台を想定(実証実験に参画する石狩新港の立地企業の数によって最終決定)。運行の効率性を確認するために乗車定員の異なる複数の車種を運行する。
- ✓ スケジュール；  
2022年10月実証開始を想定。期間は最低6か月とし、事業性検証のため可能な限り長い期間とする。

## 3) オンデマンド交通システムの供給元

- ✓ 総合商社の丸紅より、同社が日本国内向けに業務提携をしているイスラエルのMoovit社が開発、提供を行うオンデマンド交通システムの提案を受けており、実証実験での採用を検討中。
- ✓ Moovit社は今回提携先の丸紅と共に初めて日本市場への進出を目指しているが、本国イスラエル、欧州、豪州の交通事業者、自治体向けにオンデマンド交通システムを供給しており、実証のみならず実稼働中の実績も有する。
- ✓ 他者のオンデマンド交通システムと比較し、将来的な自動運転車、公共交通を統合した経路検索といった拡張性を有する。

# (別紙：実証スキーム案)

